

介護老人保健施設オアシス21 療養棟

症例概要 入所者氏名：T.H様 男性 80代 要介護度3

病名：脳梗塞、心房細動、高血圧症

主介護者の妻は、腰椎骨折後杖歩行（要支援2）

T.H様本人は妻への依存が強すぎ、息子からも夫婦二人での在宅生活に反対され、在宅困難ということで病院からオアシス21に入所。T.H様の在宅復帰の希望とそれを妨げている本人と家族の課題を整理。最終的なトイレ自立に向けた途中の着地点を設定して課題を改善し自宅への退所に結びついた症例。

内 容

オアシス入所時は更衣は見守りで必要時に介助。食事とリハビリ以外はほぼ臥床で過ごされていました。排泄については日中はトイレ誘導、夜間は尿瓶で介助でしたが、失禁が心配で頻尿。コール対応も頻繁にありました。リハビリには意欲的で在宅復帰を目指していましたが、ご家族からは、本人の厳しい性格と頻尿で介助が必要であることから、奥様と二人での在宅生活は困難であると反対され、自宅への復帰は難しいとされていました。自宅への復帰が難しい理由の一つに入院時に1度失禁してしまったことがあり、これが頻繁なナースコールとなり、自宅に戻られた後は奥様が全て対応しなければなりません。トイレ自立が難しい状況のなか、トイレを失敗することを本人は恐れていて、「トイレに間に合わなかったらどうしてくれるんだ。」「失敗したらどう責任をとってくれるんだ。」との訴えも多くありました。

本人の希望である自宅に戻るためには、ご家族の理解も必要であることから、苦肉の策としてご家族に夜間の安楽尿器使用のお話をしたところ、「それができればいいけど、たぶん本人の性格からは受け入れることが難しいと思う。」とのことでした。案の定、ご本人は拒否。しかし、拒否の理由を1時間以上かけて本人から聞き、課題を整理。過去の失禁がトラウマになり、安楽尿器が外れて失敗することが不安であることがご本人の最大の心配事であることがわかり、職員が安楽尿器用のベルトを自作。オアシス入居中にご本人に試してもらったところ、徐々に夜間が心配で頻繁に起きることもなくなり睡眠障害も改善。ご本人にも自分で着脱できるように訓練したことで喜んでいただけました。

結果的にご家族にも安心していただき、ご本人の希望であった在宅復帰が実現。現在はトイレ自立を目指して在宅でのリハビリに取り組んでいます。病院からは在宅復帰困難と言われていましたが、T.H様の在宅復帰の希望とそれを妨げている本人と家族の課題を整理。最終的なトイレ自立に向けた途中の着地点を設定して課題を改善し自宅への退所に結びつきました。これは、食い違う家族の意見をしっかりと聞きとり最善の提案ができた症例であると考えキラキラ介護賞に推薦いたします。